

決算説明資料 2020年度 本決算

岩崎通信機株式会社

あらゆる人やモノを繋ぐコミュニケーションで、
生きがい溢れる社会創りに貢献する

We connect the world,
striving towards building
a society for tomorrow.

◇2020年度 本決算(2020年4月～2021年3月)

1. 連結業績
2. セグメント別業績
3. 連結貸借対照表
4. 連結キャッシュフロー
5. 投資実績

◇2021年度 通期業績予想

6. 2021年度通期 経営計画
7. 配当予想
8. 投資予想

◇トピックス

9. 当社の新たな取り組みのご紹介

2020年度 本決算

(2020年4月～2021年3月)

1-1. 連結業績

(単位：億円)

	2019年度 通期	2020年度 通期	増減
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	223.0	217.1	△5.9
情報通信	164.4	170.1	5.8
印刷システム	23.5	17.5	△6.0
電子計測	31.3	25.5	△5.8
不動産	3.8	4.0	0.2
営業利益	1.5	△9.7	△11.2
情報通信	15.6	8.8	△6.8
印刷システム	0.7	△2.7	△3.4
電子計測	△0.6	△1.1	△0.6
不動産	1.4	1.2	△0.3
調整額	△15.7	△15.8	△0.1
営業外損益	0.7	0.7	0.1
経常利益	2.2	△9.0	△11.1
特別損益	△1.2	83.0	84.1
法人税等	0.4	21.7	21.2
当期利益	0.6	52.3	51.8

【売上高について】

コロナ禍における受注活動停滞の影響もあり、前年比2.6%の減収と前年を下回る結果となりました。

【営業・経常損益について】

売上高の減少に加え、以下の要因等により原価率が悪化し、前年を大きく下回る結果となりました。

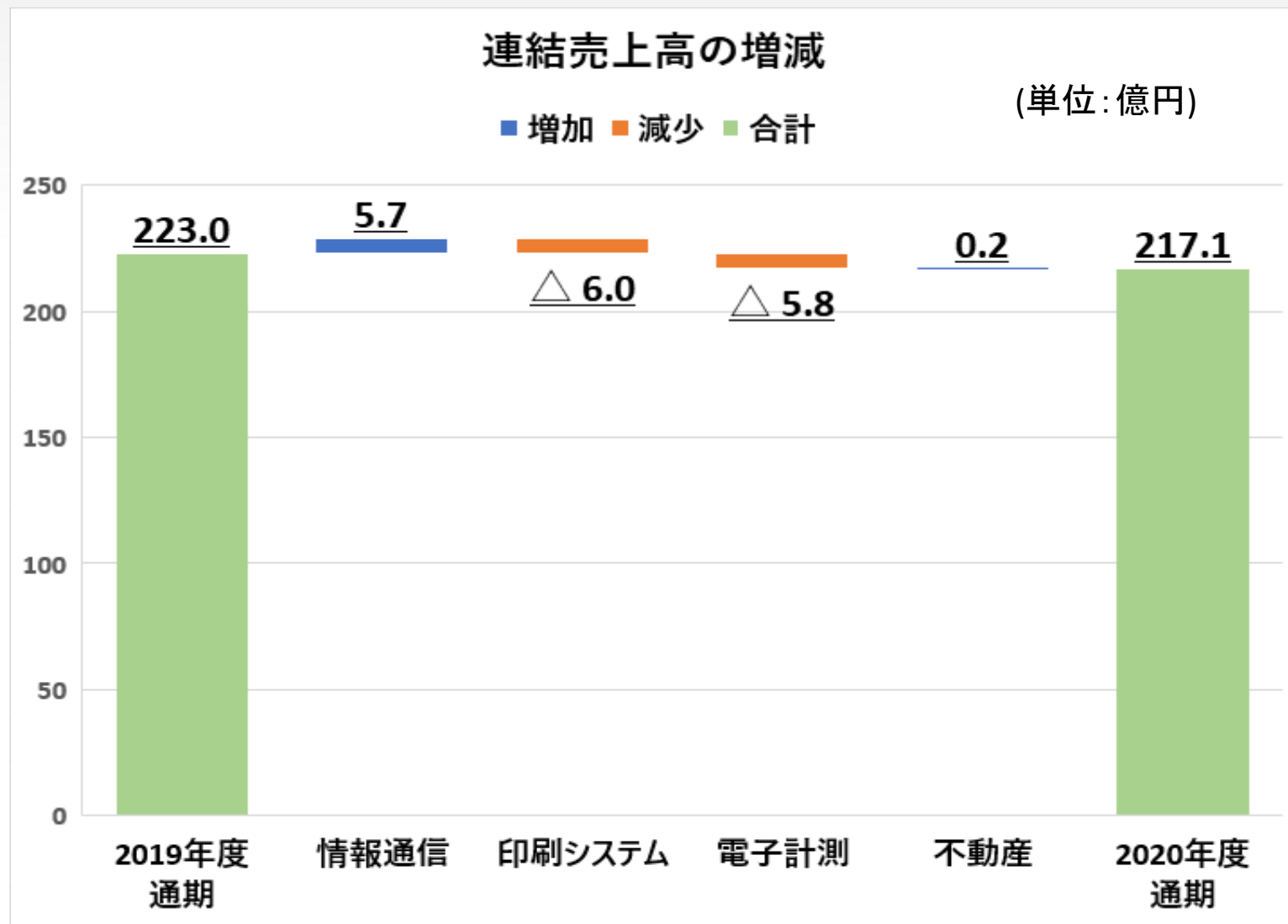
- ・受託生産売上の増加による売上高構成の変動
- ・コロナ禍における売上高減少に伴う工場操業度の低下
- ・原材料の入手難に備えた先行手配による棚卸資産評価損の計上
- ・主力製品の切り替えに伴う棚卸資産の整理

【当期純損益について】

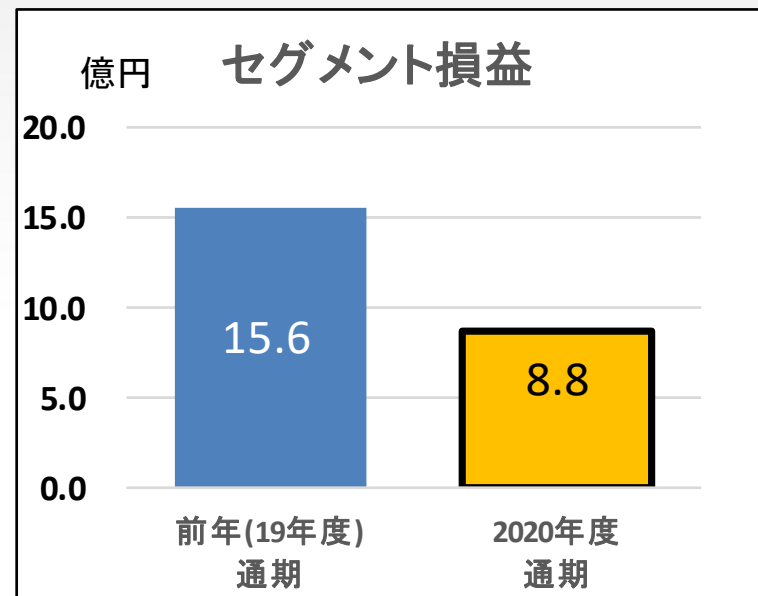
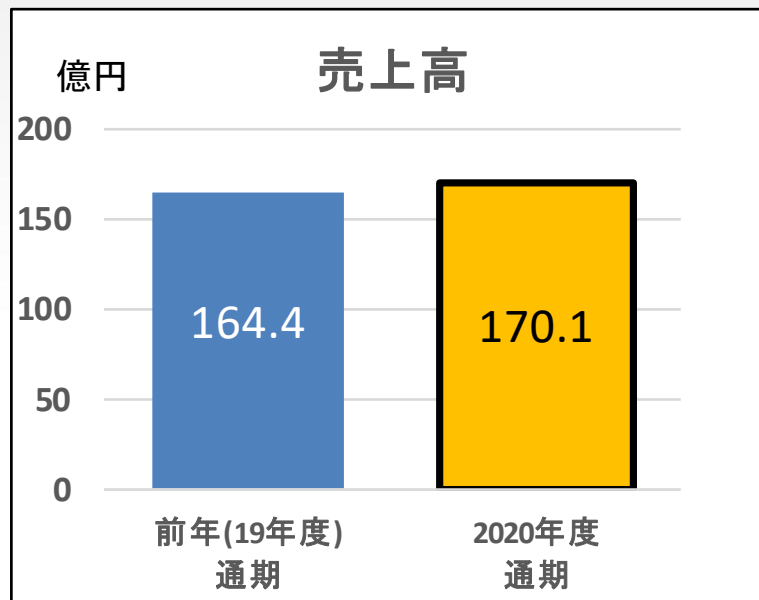
以下の要因等により、前年を大きく上回る結果となりました。

- ・固定資産の売却益83億円を特別利益に計上(賃貸用不動産としていた本社敷地内の土地及び建物の一部を売却し、譲渡対価を原資に新たな代替資産を取得することで、保有資産の更なる収益化を推進)

1-3. 連結業績



2-1. セグメント別業績（情報通信）



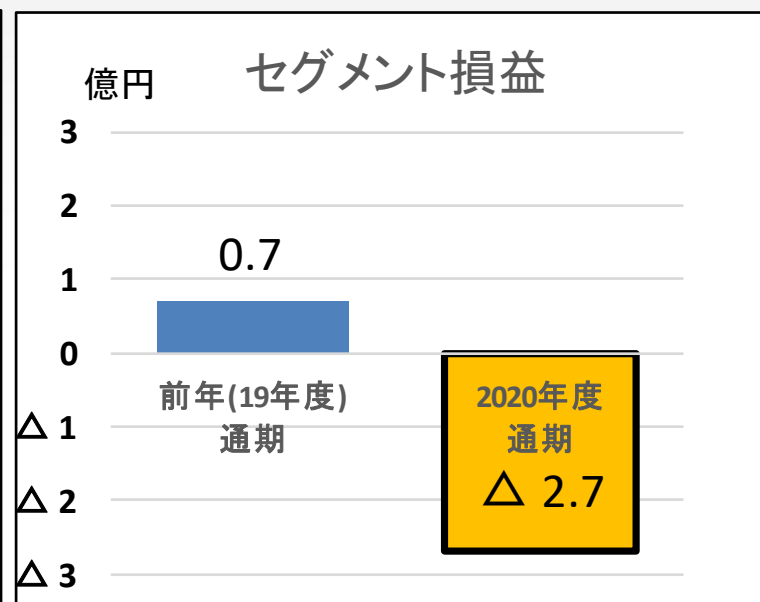
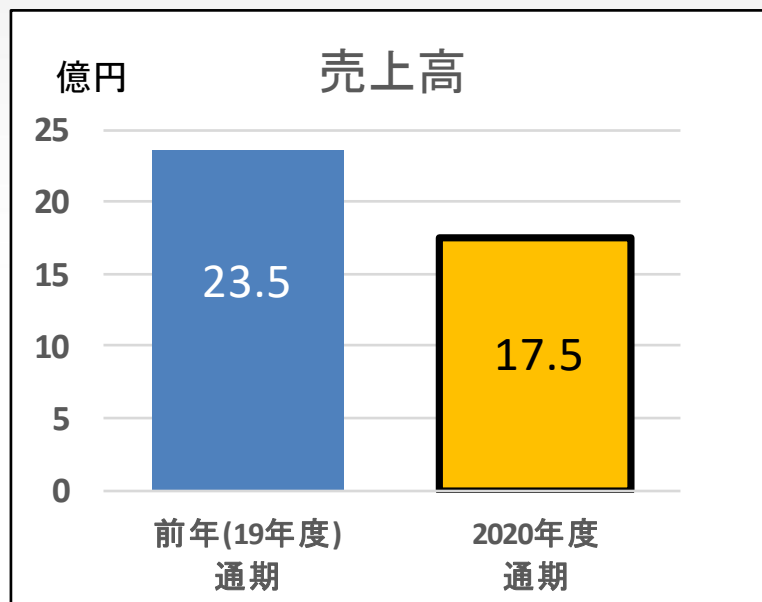
- 売上高は、受注活動停滞の影響に加え、前年度にあったコンタクトセンターソリューションの大型案件の剥落により減少。一方、生産子会社の受託生産売上が大幅に増加したことにより、前期比+5.7億円の増収。
- セグメント利益は、売上高構成の変動による原価率の悪化と主力製品の後継機の開発による費用が増加したことに加え、棚卸資産廃棄損及び評価損の計上により、前期比△6.8億円。



Frespec
フレस्पек



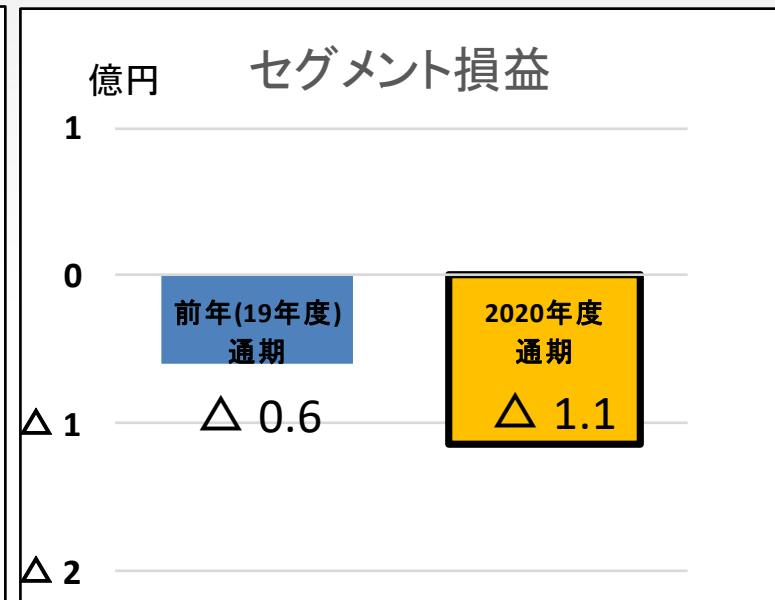
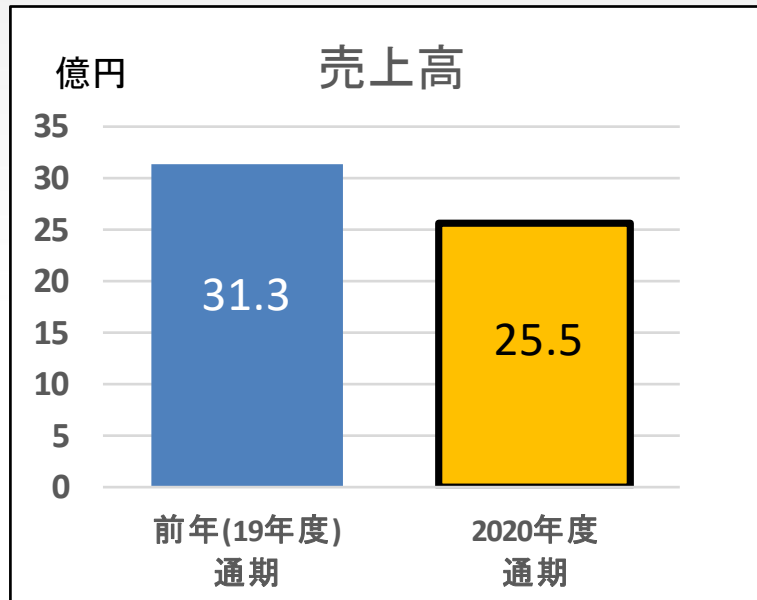
2-2. セグメント別業績（印刷システム）



- 売上高は、イベントの中止、延期等により印刷市場が大きな影響を受けたこと、また、受注活動停滞の影響もあり、主に消耗品の売上高が減少したことにより、前期比Δ6.0億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に伴い、前期比Δ3.4億円。



2-3. セグメント別業績（電子計測）



- 売上高は、企業の設備投資意欲の低下による国内外の受注活動停滞の影響に加え、前年度にあった航空宇宙関連の大型案件の剥落により、前期比△5.8億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に伴い、前期比△0.5億円。

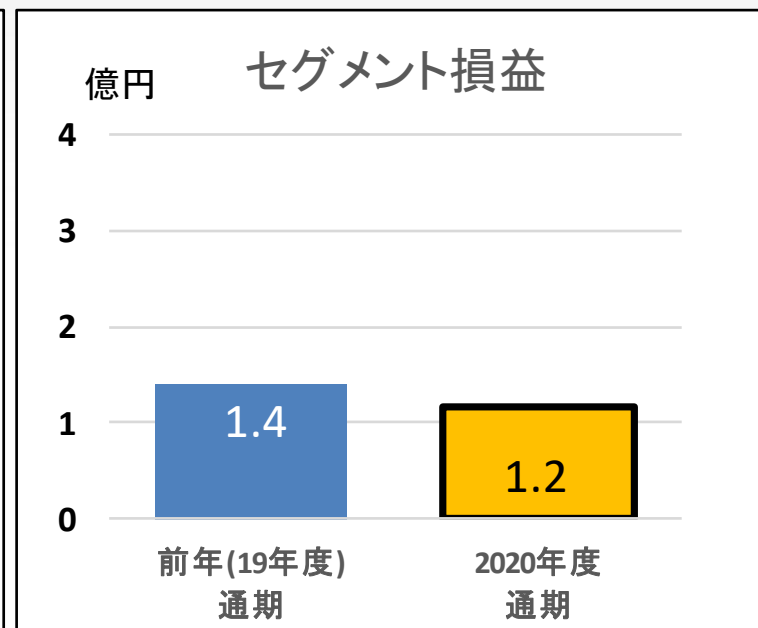
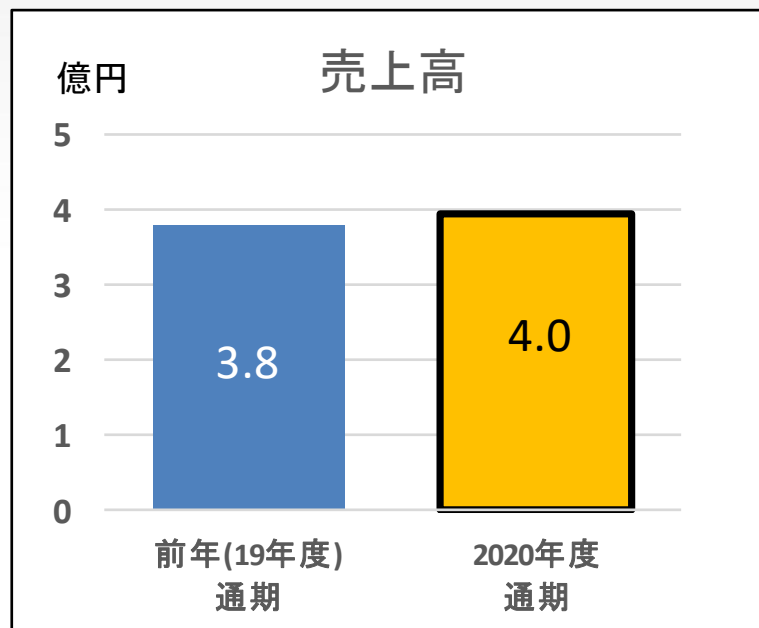


デジタル・オシロスコープ
DS-8000シリーズ



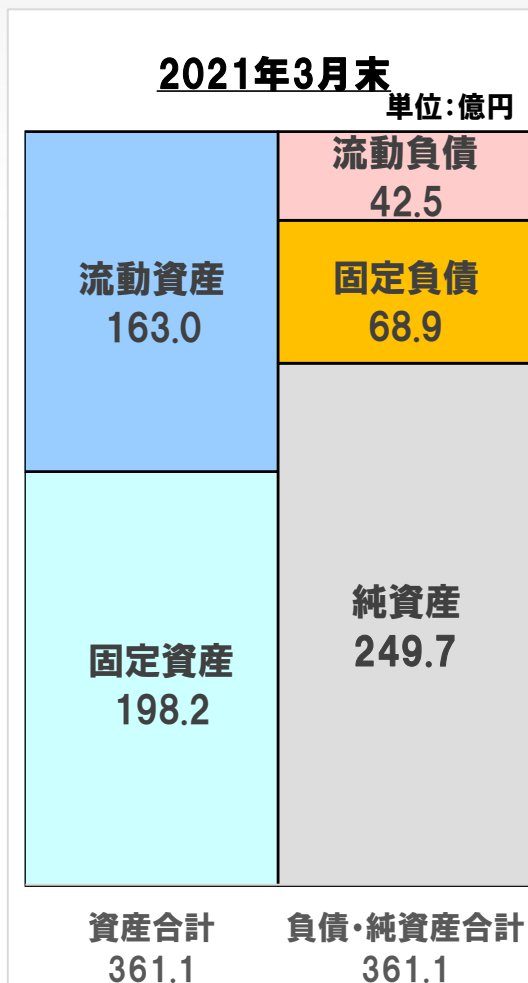
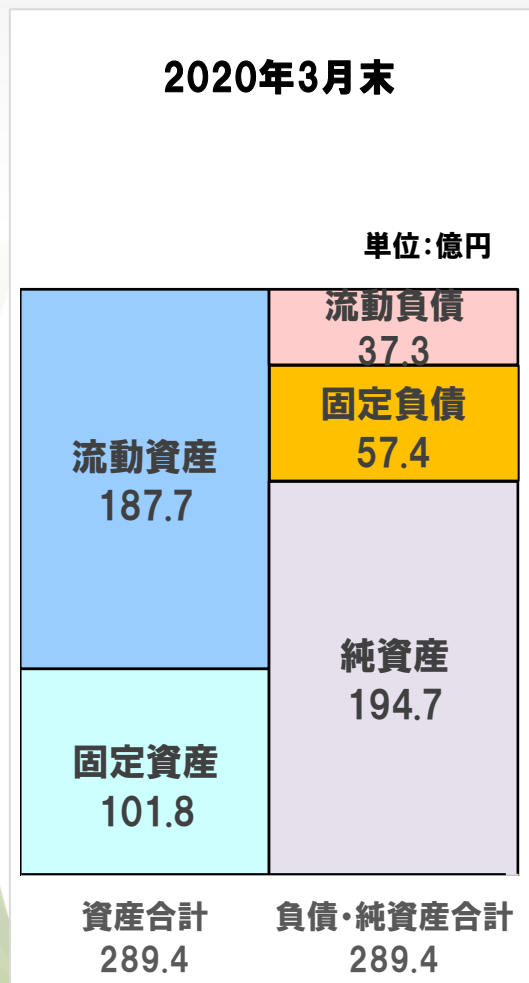
半導体カーブトレーサ
CS-8000シリーズ

2-4. セグメント別業績（不動産）



- 売上高は、主に当社本社敷地内の保有資産の有効活用により、前期比+0.2億円の増収。
- セグメント利益は、保有資産の更なる収益化のための一時的な費用の発生により、前期比△0.2億円。

3. 連結貸借対照表



・主な増減要因

【流動資産】 △24.7億円

現金及び預金 △25.8、
受取手形及び売掛金 △4.5、
商品及び製品 △2.8、
原材料及び貯蔵品 +5.3 等

【固定資産】 +96.4億円

有形固定資産 +87.0
無形固定資産 +4.9、
投資その他の資産 +4.5 等

【流動負債】 +5.2億円

支払手形及び買掛金 +5.7 他

【固定負債】 +11.4億円

繰延税金負債 +20.6、
退職給付に係る負債 △10.3 等

【純資産】 +55.1億円

利益剰余金 +52.3、
その他有価証券評価差額金 +1.8 等

4. 連結キャッシュ・フロー

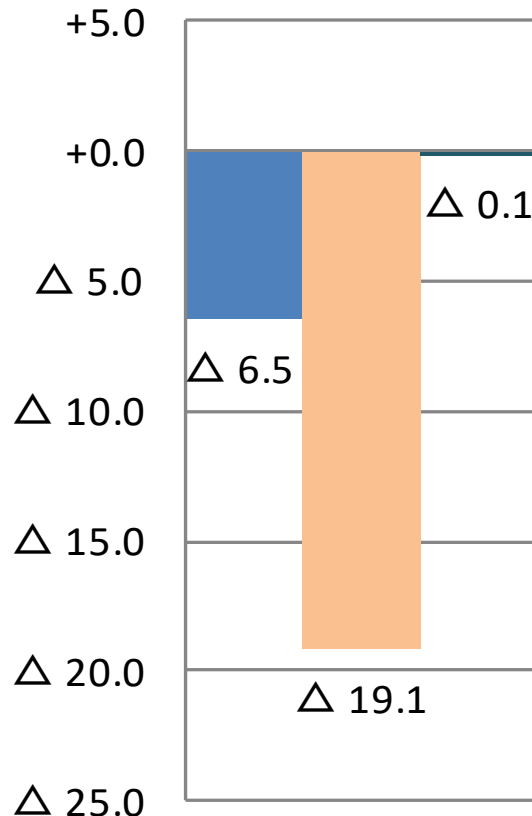
■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

(単位:億円)

2019年度



2020年度



2020年度
連結キャッシュ・フロー主な内訳

営業CF	
税金等調整前当期純利益	+74.0
減価償却費	+7.3
退職給付に係る負債の減少額	△ 9.7
固定資産売却益	△ 82.8
売上債権の減少額	+4.6
たな卸資産の増加額	+3.7
その他	△ 3.7
投資CF	
有形固定資産の取得による支出	△ 94.1
有形固定資産の売却による収入	+83.9
無形固定資産の取得による支出	△ 7.4
投資有価証券の取得による支出	△ 1.6
定期預金の預入による支出	△ 1.2
その他	+1.3
財務CF	
その他	△ 0.1

5. 投資実績

(単位：億円)

	2019年度 通期	2020年度 通期	前期比
	実績 (連結)	実績 (連結)	
有形	4.4	94.3	90.0
無形、他	4.7	7.8	3.1
設備投資 合計	9.0	102.1	93.1
研究開発費	17.1	18.8	1.6
減価償却費	7.9	7.3	△0.6

- ・設備投資増 :有形+90.0億円は、主に新規の収益物件の取得88.0億円による。無形、他+3.1億円は主力製品の後継機のソフトウェアの計上による。
- ・研究開発費増:主力製品の後継機の開発費による。
- ・減価償却費減:前期までは過年度の研究開発投資による償却費があったため。

2021年度 通期業績予想

6. 2021年度通期 経営計画

(単位：億円)

	前年(20年度) 通期	2021年度 通期	増減
	実績 (連結)	計画 (連結)	
売上高	217.1	242.0	24.9
営業利益	△9.7	2.0	11.7
経常利益	△9.0	3.0	12.0
当期純利益	52.3	2.5	△49.8

- 今後の見通しについては、新型コロナウイルス感染拡大による社会、経済への影響は長期化しており、依然として先行きは不透明な状況です。
- さらには、世界的な半導体不足、及び当社の部品調達先の工場火災により、当社主力商品の部品調達に遅延が発生することが懸念されるなど、2021年度以降の事業活動に影響が出る可能性があります。
- このような状況を踏まえ、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止に十分注意を払いながら、生産の維持と納期確保に向けて必要な対策を実施します。

※上記の見通しは、新型コロナウイルスによる影響が一定期間で回復基調に推移し、また部品調達に特段の支障がないことを前提としたものであり、状況により変動する可能性があります。

※. 中期経営計画 業績目標との差異について

(単位：億円)

	中期経営計画 21年度目標値	2021年度 通期見通し	目標と見通し の差
売上高	240.0	242.0	2.0
営業利益	7.0	2.0	△5.0

- 売上高については、新分野への取り組み効果や生産子会社における生産受託案件により、目標値240億円に対して通期見通し242億円と、目標を達成する見込みです。
- 一方営業利益については、20年度のコロナ禍の影響を受け、需要減や新商品立ち上がりの遅れに伴う既存分野の売上高減少、及び減価償却費の増加のため、目標値7億円に対して通期見通し2億円と、5億円の未達となる見通しです。
- 2021年度においては、20年度に発売した新商品及び21年度に発売予定の新商品の開発と拡販並びに新分野のビジネス確立に注力してまいります。

7. 配当予想

(単位：円)

		前年 (2020年度)	2021年度	増減
		実績	予想	
配当	中間配当	0.0	0.0	-
	期末配当	40.0	10.0	△30.0
	合計	40.0	10.0	△30.0

【2020年度配当について】

- ・コロナ禍による受注案件の遅れ等もあり20年度の営業・経常利益は赤字。
- ・一方で3月に実施した土地・建物の売却による売却益83億円等もあり、純利益は52億円。
- ・上記の内容及び今後の業績見通しを総合的に勘案した結果、期末配当を1株当たり40円としました。

【2021年度配当(予想)について】

- ・21年度の通期業績見通しを総合的に勘案し、中間配当は見送り、期末配当は1株当たり10円としています。

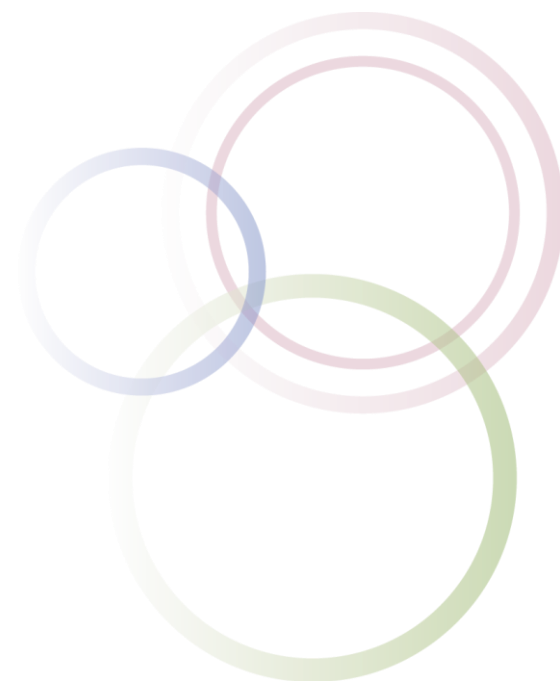
8. 投資予想

(単位：億円)

	2020年度 通期	2021年度 通期	前期比
	実績 (連結)	予想 (連結)	
有形	94.3	7.3	△87.0
無形、他	7.8	1.3	△6.5
設備投資 合計	102.1	8.6	△93.5
研究開発費	18.8	17.2	△1.6
減価償却費	7.3	11.9	4.5

- ・設備投資減 : 有形△87.0億円は、前期は新規の収益物件88.0億円の取得があったため。無形、他△6.5億円は、前期は主力製品の後継機のソフトウェアの計上があったため。
- ・研究開発費減 : 前期は主力製品の後継機の開発費があったため。
- ・減価償却費増 : 主力製品の後継機の開発投資の増加及び新たに取得した収益物件による。

トピックス



9-1. 当社の新たな取り組みのご紹介

■ 2021年7月1日付予定

首都圏におけるビジネスホンの営業体制を再編 岩通ネットワークソリューション(株)を創設

本年7月1日付で、当社の首都圏ビジネスホン営業の一部と岩通ビジネスサービス(株)の通信機器販売・工事部門を統合して「岩通ネットワークソリューション(株)」を創設。首都圏エリアの販売を強化するとともに販工一体による顧客サポート体制の改善で顧客満足の上昇を図ります。

従来の体制

岩崎通信機(株)

〔第三営業部内〕

- ・首都圏営業担当(首都圏エリアにおける、中小オフィス向けビジネスホンの直接販売(リテール営業)を担当)
- ・北関東営業所(埼玉県)

岩通ビジネスサービス(株)

- ・情報通信機器の販売、工事
- ・施設管理・人材派遣等のサービス

新たな体制

岩崎通信機(株)

岩通ネットワークソリューション(株) new!

- ・リテール営業を中心とする情報通信機器の販売、工事
- ・北関東営業所(埼玉県)

岩通ビジネスサービス(株)

- ・施設管理・人材派遣等のサービス

■ 2021年2月16日付

肌にやさしいヒアルロン酸配合 アルコール除菌剤「ALMEE (アルミー)」を発売

・肌にやさしいアルコール除菌剤

植物由来の発酵エタノールを主成分とし、肌にやさしいヒアルロン酸を配合。食品添加物、化粧品にも使用されている安全性が高い成分のみで製造しており、日常的な手指の除菌に利用可能です。

・国内グループ会社にて開発・製造の日本製

当社グループ会社の岩通マニュファクチャリング(株) 栃木事業所で設計・配合・製造。長年にわたり当社印刷システム事業のケミカル製品(有機溶剤:液体トナー、現像液、UVインク等)の開発、製造を行ってきた設備・ノウハウ・技術を利用して作られています。



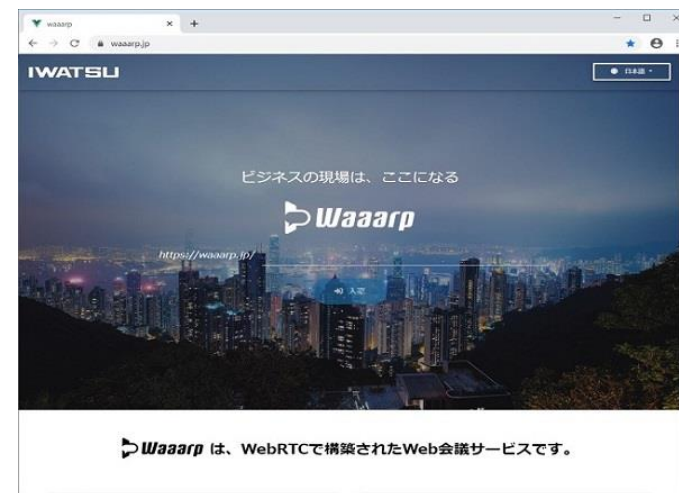
■ 2021年2月16日付


Webサービスの企画・開発・運営を手掛ける 株式会社grabssへ資本参加

当社は株式会社grabss と、2019年11月よりWeb会議システム「Waaarp (ワーブ)」をはじめとするWebRTC関連製品の共同開発を行ってきました。今後さらに関係を強化し、新たなクラウドコミュニケーションサービス等を展開していくため、同社への資本参加を行いました。

株式会社grabss 概要

会社名	株式会社grabss
代表者	代表取締役CEO 下平 誠一郎
設立	2012年10月
事業内容	Webサービスの企画・開発・運営、Webシステム・ソフトウェアの受託開発
URL	https://www.grabss.co.jp/



共同開発した当社の
Web会議システム 

9-4. 当社の新たな取り組みのご紹介

■ 2021年4月14日付

電流プローブをモデルチェンジし 高感度・広帯域のSS-500シリーズ8機種を発売

・微小電流から大電流までの幅広い測定に対応するラインナップ

昨今の電気機器の高効率化が求められる開発の現場において、小さな電力変化を確実に見極められる測定器とセンサの役割が非常に重要となっています。SS-500シリーズは微小電流から大電流までの幅広い測定に対応するラインナップを取り揃えました。

・デジタルオシロと組み合わせて市場に展開

昨年11月に当社から発売した、広帯域化と高分解能化を実現したデジタルオシロスコープ「DS-8000シリーズ」と組み合わせてパワーエレ市場を中心に販売の拡大を図っています。

